

(一社) 東北ニュービジネス協議会
2023年度 「視察会」

有限会社 伊豆沼農産

2023年7月28日





くんぺる農場レストランとくんぺる直売マーケット

昼食会





「新しい農村ビジネスの構築」

ニーズからプロポーザルへ

有限会社伊豆沼農産
代表取締役会長

伊藤 秀雄 氏

講演会





講演会

インターンシップ中の台湾の大学生お二人も受講しました





くんぺる生ハム体験工房前で 2023年7月28日 28名参加



取締役 農村産業研究所担当
佐藤 裕美さん

自分だけの生ハムを作ってみませんか？
～伊達の純粋赤豚骨付きモモ～
今なら45,000円(2023年11月まで)



施設見学





台湾の大学生お二人の
就業体験の様子が河北
新報で紹介されました。
(2023.7.27朝刊)

台湾の大学生2人登米・伊豆沼農産で就業体験

食品製造や接客学が

台湾の大学生2人が今月、農業法人伊豆沼農産(登米市)で「インターンシップ(就業体験)」を始めた。食品製造や接客などを通じて日本語や仕事を学ぶと同時に、地元住民と一緒に伝統文化に触れるなど交流を深めている。

登米市を訪れているのは、[▲]と楊偉欣さん(21。南台湾の高雄科技大學東三陸町観光協会が主催する台湾の大学生対象のプログラム



日本で働く夢に近づくと

に専じた。2人は今回初の「積古を売っているほか、地元へ受け入れ先に加った伊豆沼農産を研修先に選び、9月15日まで滞在する。

工場やレストランなどで働く「就業体験や交流を通じて日本語や表現方法を学んだと口をそろえる。李さんは「日本でも働く夢に近い。南台湾の交流施設であった伊豆沼農産は「将来の目標を考えた上で幅が広がった気がする」と話す。

古武道で文化交流
外国人誘客に二役

し「メインイベント」役を

親子連れ20人の客を前に、李さんは「インターン作りは人の誘客を図る企業にとって3回なので、こが分かる。伊豆沼農産の佐藤裕美取締役になってきた」と笑顔を見せ(40)は「2人のおかげで、外国語メニューが充実するなど週末を中心に伝統文化や地

が進んだ。ほかにも準備が必須なのかといった相談も作「インターン教養のメニューはできる。何より登米の生活を」と強調する。

伊豆沼農産

と李さん(21)登米市道の伊



このたびは、貴重な機会
をいただきまして、誠に
ありがとうございました。

A green rectangular box containing a black and white cartoon caricature of a smiling man with short hair, wearing a suit and tie. To the right of the caricature is Japanese text: "このたびは、貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。"